

《社会福祉法人 仁育会 経営理念》

地域との連帯を深め信頼される社会福祉施設としての確立と、安心と安全を守るゆとりある生活支援を目指します。

《青梅療育院運営方針》

1. 利用者から安心されるサービスの提供
1. 生活の安全を守るサービスの提供
1. 要介護度に応じた適切なサービスの提供

8月の行事予定

- 1日（木）誕生会
- 20日（火）2階理美容
- 25日（日）納涼模擬店

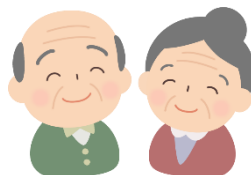


- 27日（火）3階理美容



9月の行事予定

- 5日（木）誕生会
- 13日（金）敬老会
- 17日（火）2階理美容



■ 認知症について

認知症という言葉が出来たのは平成16年12月の国会において、今まで「痴呆」とか「ぼけ」と言われていた言葉を廃止して、改めて認知症が一般用語として認められるようになりました。

認知症はいろいろな原因で脳の細胞が損傷を受けたり、働きが悪くなることで、物事を記憶出来ない、言葉がうまくしゃべれない、簡単な計算が出来ない、何かをやろうとしても直ぐに行動出来ないなど、頭の働きの低下による症状を言います。

認知機能の著しい低下によって自分自身の生活環境が変わってしまい、常に不安な状態となって怒りっぽくなったり、幻覚や妄想が出たりして徘徊などが顕著になったりします。

認知症の原因となる病気には主にアルツハイマー病や、脳血管障害、レビー小体病の3種類があり、そのうち最も多いのがアルツハイマー型認知症で、全体の60%を占めています。認知症は誰でも罹る可能性のある脳の病気で、東京都全体では38万人を超えていて、これから10年後には70万人に増加すると推計されています。認知症は高齢者ばかりではありません。若年性認知症と言って50歳代から発症する人が、東京都では4千人いると推定されています。

「認知症になったらおしまいだ。」「あの人は認知症だから何を言っても分からない」など、家庭や職場で人々の口に上がるようになりました。これは日本全体の生活文化が向上し、家の暮らしや街の有様が急速に変化し、人々の暮らしのテンポが速くなり始めた1970年頃から人格に関する差別が始まってきたようです。

認知症は年齢相応の物忘れとは全く別のもので、脳細胞の障害によって感覚機能に著しい障害が発生する病気です。残念ながら現在のところ完治する薬はありませんが、治療や運動によって進行を遅らせることが可能な場合があります。

認知症は頭の中の見えない病気です。見えない敵と格闘しても疲れるばかりです。病は確実に進行していきますので、早いうちから予防に充分注意していくことが大切です。その予防対策として次のことに気をつけていくことが大切です。

- ・ 塩分を控えめにして1日10グラム以下になるよう、塩辛いものを避けるよう食事に注意し、お酒もほどほどにして栄養のバランス良い食事を心がけましょう。
- ・ 適度な運動によって、足・腰の強化や全身の健康維持に努めましょう。
- ・ 1日中家の中に籠らないで、できるだけ多くの人との交流の機会をつくるようにしましょう。

理事長 宇津木敏郎



七夕茶話会

今年のかすみ台第3保育園の園児の皆さんが手作りの飾り付けをプレゼントしてくれました。とってもかわいい飾り付けされた笹の葉に願いを込めた短冊を飾りました。



迎え火・送り火

新盆の青梅は7月13日が盆入りです。理事長がお経を唱え、皆様で御霊お迎えしました。



夏の花火大会！

今年も花火大会を開催しました！まだまだ日が長く夕暮れの花火大会でしたが、様々な花火にご利用者様からも拍手や歓声が上がりました。



夏だ！流しソーメンだ！！

ある職員が構想2年！！やっと叶った流しソーメン！！冷たくて美味しいソーメンを堪能しました！！



ある職員

